

来訪者が増加し続けるシンガポール

シンガポールデスク 関 泰二

2月中旬からシンガポールでは新型コロナウイルスに関するほぼ全ての規制が撤廃されました。特に、電車やバスなどの公共交通機関でのマスク着用が不要となったことは、当地で生活している者としては大きな変化だと感じています。国境規制もすべて撤廃され、待ちに待ったコロナ終息となりました（一部、医療機関でのマスク着用義務などは残ります）。予防接種を受けていない旅行者も、シンガポール入国前に出国前の検査で陰性だったことを証明する必要もなく、シンガポール到着時にワクチン接種の証明書を提示する必要もなくなりました。

それから約3ヶ月経ち、マーライオンをはじめ、国内の観光地ではコロナ前によく見た観光バス、旗を持ったツアーガイドが先頭に立って案内する団体客が戻ってきており、街を歩いていても至る所で観光客を目にするようになりました。私が経営するレストランは、Boat Quay とよばれるシンガポールリバーの川沿い近くにあり、この辺りはもともと観光客が多いということもありますが、外国人観光客で溢れています。私が経営するのは、日本食を出す小さな隠れ家的なレストランですが、ふらっと予約なしでウォークインとして入店するお客さまも見られるようになったことは大きな変化です。

昨年末から数ヶ月、日本から多くのお客さまがシンガポールにお越しになり、私も会食や商談、視察のアテンドなどの数が急激に増えて日々対応に追われています。コロナ期間中の渡航が難しか

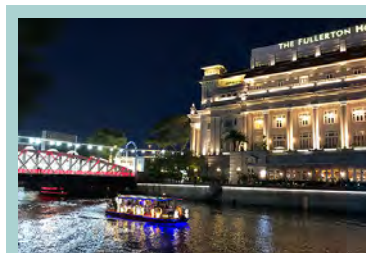


毎日多くの観光客で賑やかな
マーライオン

った期間に「ひょうご国際ビジネスサポートデスク」のシンガポールデスクとしてオンラインでご面談させていただいた兵庫県企業様数社からも、来月以降のシンガポール出張へのサポートの打診をいただいております。

ここで、少しだけシンガポール政府観光局（Singapore Tourism Board）の統計を見てみましょう。2023年4月における海外からシンガポールへの来訪者数は113万人となり、前月に記録した102万人を上回りました。2カ月連続で

100万人を超えたのは、2020年にコロナの流行が始まって以来2度目となっています。シンガポールへの来訪者数が最も多い国は、近隣ということもありますがインドネシアです。ここ1年程は最大数を保っており、4月は22万人となりました。参考までに、2位はマレーシア、3位はインド、4位はオーストラリア、5位は中国からの来訪者です。今後中国からの来訪者はさらに増えていくと予想されます。この状況を見ると感染症の再流行など予期せぬ事態がなければ、2024年までにコロナ禍前の水準に回復すると予想されています。



ホテルも観光客で満室が続く

私の実感としても、昨年から今日現在まで、国境規制の緩和によるシンガポールでのMICEイベント再開の加速が特に大きかったと思います。私も参加した食に関する展示会、「Food and Hotel Asia - Food & Beverage」は、115カ国以上から過去最高の参加者を集めました。さらに、2年ぶりに開催されたF1シンガポールグランプリは過去最高の30万2000人の観客を集めるなど、多くの国際イベントが戻っており、このF1グランプリは今年も開催が予定されております。ここ数ヶ月でもビジネス交流会のような大小たくさんのイベントが開催され続けております。

もともとの東南アジアのハブとしての「他国への移動の便利さ」、「ビジネス環境の良さ」、そして「治安の良さ」等々の優位性を改めて感じさせる、このようなシンガポールへの来訪者の統計実績は、ポストコロナに



シンガポールの観光の象徴
マリーナベイサンズ

において、シンガポールが東南アジアにおけるビジネスの主要な目的地として魅力的であることを浮き彫りにしたと言えるでしょう。

ひょうご海外ビジネスセンターは、世界11カ所に海外展開現地相談窓口として「ひょうご国際ビジネスサポートデスク」を設置しています。本通信は、毎月1回、各デスクから寄せられる現地トピックスを順にお届けするものです。

【発行 公益財団法人ひょうご産業活性化センター ひょうご海外ビジネスセンター】

「ひょうご国際ビジネスデスク通信」バックナンバー <https://www.hyogo-kaigai.jp/supportdeskt>